

	2018.12短	2019.5短	2019.12短	2020.8短	2018.8論	2019.8論
財務会計の機能と制度						伝統
財務会計の基礎概念				1 利益観		伝統
「企業会計原則」の一般原則等			1 重要性			伝統
財務諸表の表示	11 横断	2 財規	5 負債			伝統
損益会計	9 収益					伝統
資産会計総論						伝統
棚卸資産						伝統
固定資産		3 概フレ等横断			4-4	伝統
リース会計	15		14		3-1	個別
繰延資産						伝統
研究開発費等		17				個別
負債会計				7,10		伝統
純資産－総論					3-1	伝統
純資産－自己株式						伝統
純資産－その他の資本剰余金						伝統
財務会計の概念フレームワ－	1	1			4-2	個別
会計上の変更及び誤謬の訂正			10			個別
金融商品会計	5 不動産流動化		12 ヘッジ		4-1	個別
連結会計				18	5-5	個別
持分法会計					5-2	個別
包括利益の表示	21					個別
関連当事者の開示	20					個別
外貨換算会計						個別
ストック・オプション	13	13		13	4-1	個別
固定資産の減損			4 賃貸等	19	3-2	個別
棚卸資産の期末評価	3					個別
工事契約				7		個別
退職給付会計		16		10,16		個別
資産除去債務債務					4-3	個別
税効果会計	17		22		4-3	個別
企業結合	19 事業分離含む		20	22	5-3	個別
事業分離等				22	5-4	個別
キャッシュ・フロー計算書					3-2	個別
四半期財務諸表		20	19			個別
セグメント情報		21				個別
1株当たり当期純利益						個別
収益認識		9		2		個別

財務会計 理論 の傾向と対策

直近出題実績は左表のとおり

- 短答は、伝統的な論点・個別会計基準 双方からまんべんなく出題。
- 論文は、個別会計基準が出題の中心

短答式試験でどんな感じ？

- 文章の内容が正しいか、間違いがあるかを判断する試験。
- もっと言えば、文章中の「明らかな間違い」を捜す試験

論文式試験でどんな感じ？

- 現行の会計処理が「なぜそう定められているか」理由を文章で説明する試験。
(→「結論の背景」が問われます。)

具体的にどのように学習を進めると効率的か？

- きちんとした理解を前提に、最低限の暗記は、(残念ながら)必要
- 最低限とは、「概念セットが頭の引出からばっと取出せる」水準

概念セットとか、いきなり言い出して、何それ

- 会計の説明で、「対立する幾つかの概念」と「その場面設定」の組合せ
- 例

「ファイナンス・リース取引」
↑
対立する概念
↓
「オペレーティング・リース取引」

(場面設定)リース会計基準適用の際のリース取引の分類

概念セットをまず押さえていく実益

- 概念セットを明確に頭に定着できれば、これを手掛かりに、
テキストの内容が頭に入りやすくなる。
→結果、テキストの理解と暗記のスピードが上がる。
→試験日までにより広範な知識を獲得できる
→短答式の合格可能性を高めることができる。
- 何かを説明するとは、結局、複数の概念セットを関連付けること
→概念セットの確かな知識を関連付ける練習を行い、精度を上げれば、
→論部式の合格可能性を高めることができる。

- 16 財務会計の概念フレームワーク
- 17 会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正
- 18 金融商品会計
- 19 連結会計
- 20 持分法会計
- 21 包括利益の表示
- 22 関連当事者の開示
- 23 外貨換算会計
- 24 ストックオプション
- 25 固定資産の減損

26 棚卸資産の期末評価

総論

通常の販売目的で保有する棚卸資産

トレーディング目的で保有する棚卸資産

- 27 工事契約
- 28 退職給付会計
- 29 資産除去債務 総論☆☆★②P206
- 30 税効果会計
- 31 企業結合 基本的な考え方☆☆☆☆★②P206
- 32 事業分離等
- 33 キャッシュフロー計算書 収益性の低下の判断基準☆☆☆☆★②P208
- 34 四半期財務諸表
- 35 セグメント情報
- 36 1株当たり当期純利益 期末における正味売却価額②P209~210
- 37 収益認識

例外的な会計処理☆☆★②P210

洗替法と切放法☆☆☆☆★②P211

トレーディング目的の棚卸資産 会計処理
☆☆★②P214

☆☆★伝統的な考え方として、低価法を取得原価基準の枠内とする考え方2つ		
	原価を残留有用原価と捉える	②P207 再調達原価まで簿価を切り下げる
	原価を回収可能原価と捉える	②P207 正味売却価額まで簿価を切り下げる
☆☆☆☆★前期計上した簿価切下額の戻入れについて考え方3つ		
	洗替法(しか認めない)	②P211 減損認識のハードル低い→回収可能価額の回復を考慮する必要あり
	切放法(しか認めない)	②P211 戻入れを認めると「損失を繰延べないため」という趣旨に反しておかしい
	洗替法と切放法の選択適用	②P211 収益性低下の要因を「物理的・経済的劣化」と「それ以外」の2つがあるという前提

この基準が、通常販売用棚卸資産とトレーディング目的の棚卸資産を区別して規定されている理由を確認。
ずばり一言で言うなら、「投資の性質が違うから」ですよね。

固定資産の減損と同様です。キーワードも同じ。
「収益性の低下」「回収可能性を反映」「損失を繰延べないため」「取得原価基準の下」

固定資産と棚卸資産を対比させて理解してください。
固定資産の投資回収：使うか売るか 棚卸資産の投資回収：売るしかない

この箇所は短答対策(理論のみならず計算も含む)として、脚注も含め、押さえてください。

回収可能価額の代りに再調達原価を使うのが、例外処理であることを確認。
どのような場合に可能か、短答対策上、確認。(原材料をイメージ)

結論は「洗替法と切放法の選択適用」です。
選択適用とするのはまずいのでは、という意見とその反論が※15です。

具体例：金地金
会計処理：売買目的有価証券と基本的に同じ 売上高純額表示、という点に注意！

概念セット数 2